区のマーク
SAWARA
# さわら

人口：211,728人
男 100,284人　女 111,444人
世帯数：91,156世帯
（平成21年5月1日現在推計）

早良区役所電話番号案内
TEL 841-2131
〒814-8501　早良区百道二丁目1-1
http://www.city.fukuoka.lg.jp/sawara/
入部出張所
TEL 804－2011
〒811-1102　早良区東入部二丁目14-8

期＝日時 所＝場所 対＝対象 定＝定員 料＝料金、費用 持＝持参 託＝託児 問＝問合せ ☎＝電話番号 F＝ファクス 申＝申込み 開＝開館時間 休＝休館日

## 集中豪雨に要注意

近年、初夏から秋にかけて、短時間に降る局地的な大雨、いわゆる「ゲリラ豪雨」が発生しています。

「ゲリラ豪雨」は、突然発生するため予測が困難です。川遊びなどをする時は天候の急な変化に注意しましょう。

## 「区防災マップ」を配布中

災害時に区内に開設される避難所や、防災のための知識・対策を掲載した「早良区防災マップ」を区総務企画課（☎833-4303 F851-2680）で配布しています。また、区ホームページ（本紙右上にアドレスを記載）にも防災・危機管理情報を掲載していますのでご覧ください。

## 市内の防災情報が確認できます

### 防災メール

気象情報や各注意報・警報などの情報を配信します。パソコンや携帯電話から専用のアドレス（entry@fukuoka-city.jp）に空メールを送信すると利用登録できます。

### 福岡市消防情報メール（ふくしょうめーる）

消防局から火災や救助活動などの情報を配信します。パソコンや携帯電話から同メール登録サイト（【パソコン版】http://m119.city.fukuoka.lg.jp【携帯電話版】http://m119.city.fukuoka.lg.jp/m/）で利用登録が必要です。

※上記サービスは、どちらも情報料は無料ですが通信料は利用者の負担となります。

# 災害時の対応を確認しよう

## 「もしも」の備えは大丈夫？

声を掛け合いバケツリレーする参加者

**百道小で防災訓練**

市民総合防災訓練が5月20日に市内6か所で行われました。これは地域住民と消防署や区役所などの関係機関が協力して訓練に取り組むことで、防災に対する意識の向上と災害時の対応を確認することを目的としています。

区内では、百道小学校で同訓練を実施し、住民約100人と同小の全校児童が参加しました。訓練は、地震とそれによる火災の発生を想定。校庭へ避難した後、バケツリレー・消火器による消火や、傷病者の救助などに取り組みました。

中でも、消防車の放水体験は人気があり、参加者たちは消防署職員の指導のもと、ホースを懸命に操作していました。

**防災知識を身に付けて**

訓練に参加した諸藤義勝さん（67）は「日ごろ扱う機会が少ない消火器の操作などを体験できてよかったです。地域の人との交流も深まるため、今後も積極的に参加したい」と話していました。

同校区自治協議会の佐藤幸市会長（72）は「防災の知識を身に付けて、定期的に訓練を行うことが、もしもの時に大きな力になります。地域住民の助け合いの輪を広げていければ」と語っていました。

# 忘れてはいけない災害の記憶

## 区内を襲った大水害

昭和38年 水害

①内野小学校まで押し寄せた濁流
②廊下を土砂が埋め尽くしました
③水の勢いが強く、崩れかかった校舎
（いずれも内野小学校提供）

平成11年6月29日に起きた豪雨による水害は、博多区・中央区を中心に猛威を振るいました。

区内でも、今から約50年前に大水害が起こり、室見川や樋井川がはんらんして大きな被害が出ました。早良二丁目（当時は早良郡早良町）に住む男性（80）から当時の様子を聞きました。

**わずか30分の出来事**

昭和38（1963）年6月29日の夜半から降りだした雨が、30日未明から土砂降りになりました。男性が大雨に気付いたのは午前5時半ごろ。家の近くを室見川が流れ、稲作用水として利用していたため、「雨が強いので田んぼの水路を止めよう」と家を出ました。当時の室見川は自然の流れのままで、道路は舗装されていなかったといいます。

作業をしている間に川から水があふれて、あっという間に道路の水はひざの高さまで来ていました。この間、わずか30分ほどの出来事。思いも寄らない場所で水が流れ出したため、近くの高台に避難したそうです。

**甚大な被害状況**

「昭和38年水害」と呼ばれるこの豪雨は、午前0時から7時までの7時間に190ミリの降雨を記録。河川の満潮時と重なり、市内の被害は、死者1名・負傷者4名・家屋全壊14戸・半壊47戸という大きなものでした。

家屋のほかにも橋や農作物、牛・鶏といった家畜が流されるなど、多くの被害が発生。内野小学校では、はんらんした川が校舎を襲い、再建が必要になりました。

**突然の「もしも」に備えて**

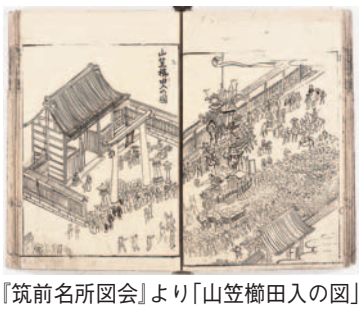
その後、災害復旧のための工事や、河川の護岸建設を実施。また大雨に備えるために、下水道などの施設が整備されました。男性は「あの時、一番頼ることができたのは自分自身でした。普段から災害に対する準備と心掛けが必要です」と語ります。

## 歴史のソムリエ

最終話　筑前名所図会

旅行に出掛けるときに観光地の案内が載ったガイドブックを手に取る人も多いと思います。今回紹介する『筑前名所図会』（市博物館蔵）は、江戸時代の筑前国、現在の福岡県北部の名所を紹介した書物です。

著者は博多町人の奥村玉蘭（1761～1828年）。学問を亀井南冥・昭陽に学び、絵を京都の絵師佐伯岸駒に学びました。玉蘭は、江戸時代後期以降に盛んに刊行された、『都名所図会』をはじめとする各地の名所案内にならって執筆し、文政4（1821）年に原稿を完成させました。



『筑前名所図会』より「山笠櫛田入の図」

『筑前名所図会』は全10冊から成り、高取焼の窯元や、石釜にある花乱の滝など区内の地域を含む各地の寺社や名所旧跡、歴史的出来事や伝説などを246件におよぶ挿絵を交えながら紹介しています。挿絵は数件を除いて玉蘭自身が描いたもので、博多や福岡などの町並みをはじめ、松囃子や博多祇園山笠など祭礼の様子も描かれ、江戸時代の人々の生活がうかがえます。

『筑前名所図会』は活字化され刊行されています。図書館などで手に取って、身近な名所旧跡を再発見してみてはいかがでしょうか。（博物館学芸員　髙山英朗）

＝終わり

6月30日（火）は市県民税第1期の納期限です

遅れないように納付しましょう。市税の納付は便利な口座振替にしませんか。
問区納税課（☎833-4316 F841－2185）へ